

しょうしんねんぶつげわさん

# 正信念仏偈和讃

右・草譜  
左・行譜

浄土真宗本願寺派勤行  
意識・作法説明付

○は、調声一人で読みます  
●より、一緒に読みます

## 日常・命日・七日参り等の場合

合掌・念仏・礼拝・経本を頂く・キン二打

### 礼拝文

いまさいわ

われ今幸いにまことのみ法を聞い

のりき

て限りなきいのちをたまわり 如来

かぎ

によらい

だいひ

の大悲にいだかれて安らかに日々を

やす

にちにち

つつし

おくる謹んで深きめぐみをよろこ

ふか

たいつ

び尊きみ教えをいただきまつらん

おし

キン一打

## 法事の場合

合掌・念仏・礼拝・経本を頂く・キン二打

### 三奉請

ぶじようみだによらいにうどうじよう さんげらく

○奉請弥陀如来入道場●散華樂

「一」 「一」 「一」 「一」 「一」 「一」 「一」 「一」

阿弥陀如来、準備が整いました。花を降らしお迎之します。

ぶじようしゃかによらいにうどうじよう さんげらく

○奉請釈迦如来入道場●散華樂

「一」 「一」 「一」 「一」 「一」 「一」 「一」 「一」

釈迦如来、準備が整いました。花を降らしお迎之します。

ぶじようじつぼうによらいにうどうじよう さんげらく

○奉請十方如来入道場●散華樂

「一」 「一」 「一」 「一」 「一」 「一」 「一」 「一」

全ての仏方、準備が整いました。花を降らしお迎之します。

キン一打 作相 キン二打 表白 キン一打

# ○歸命無量壽如來

なもふかしぎこーう

いつでも共におられる阿弥  
陀如來が扱(あ)り所(ところ)です。

# ごこうしゆいししようじゆー 五劫思惟之摂受

じゆうせいみようしよもんじつぽーう

五劫もの永い間、思案を重  
ね、四十八の願を誓われ、

# ●南無不可思議光

ほうぞうぼさついににじー

どこでも共におられる阿弥  
陀如來が扱(あ)り所(ところ)です。

# じゆうせいみようしよもんじつぽーう 重誓名声聞十方

ふほうむりようむへんこーう

重ねて南無阿弥陀仏と名と  
なり声となり、すべてに聞

# 法蔵菩薩因位時

ざいせいざいおうぶつしよー

阿弥陀如來が法蔵という菩  
薩であられた時のことです。

# むげむたいこうえんのこーう 普放無量無辺光

むげむたいこうえんのこーう

かせたいと誓われ阿弥陀如  
來と成られました。その光

# 在世自在王仏所

とけんしよぶつじようどいーん

師の世自在王仏に導かれ、  
様々な仏の国の成り立ちや、

# しようじようかんぎちえこーう 清淨歡喜智慧光

しようじようかんぎちえこーう

は、限りなく、境がなく、  
遮るものがなく、ならぶも

# 觀見諸仏淨土因

こくどにんでんしぜんまーく

往き方を学ばれ、その国に住  
む人々をよく觀察され、まだ

# ふだんなんじむしようこーう 不斷難思無称光

ふだんなんじむしようこーう

のがなく、光の王であり、  
清らかで、よろこびに満

# 国土人天之善悪

こんりゆうむじようしゆしようがーん

すくいから漏れているもの  
がいることを知りました。

# ちようにちがっこうしようじんせーつ 超日月光照塵刹

ちようにちがっこうしようじんせーつ

ち、全てを見通し、絶之間  
なく、我々の考えや言葉は

# 建立無上殊勝願

ちようほつけーうだーいぐぜーい

そして誰一人もらすことな  
くすくうための願いを立て

# いっさいぐんじようむこーうしよーう 一切群生蒙光照

いっさいぐんじようむこーうしよーう

はるかに及ばず、太陽や月  
をも超えた光で、すみずみ

# 超発希有大弘誓

こくに優れた誓いです。

# が照らされています。

が照らされています。

ほんがんにんぎょうじょうじょうじょう  
**本願名号正定業**

その証として南無阿弥陀仏  
と私の口から出るのです。

しんしんぎょうがんにいん  
**至心信樂願為因**

その念仏は仏の喚び声と聞  
くことがすくい源です。

じょうどうがくしやうだいねはん  
**成等覚証大涅槃**

この迷いの身がいのちを終  
え、極樂へ生まれるのは、

ひつしめつどがんにやうじゆー  
**必至滅度願成就**

必ずさとりに導くぞとの願  
が成就されたからです。

にやらいしよーいこうしゆつせー  
**如来所以興出世**

お釈迦様や多くの仏が世に  
お出ましになられたのは、

ゆいせつみだほんがにかーい  
**唯説弥陀本願海**

ただ阿弥陀如来の本願を説  
くためです。

ごじよくあくじべんじやうかーい  
**五濁悪時群生海**

わかつちやいるけどやめら  
れない迷いに生きる人は、

おうしんにやらいによじつごーん  
**応信如来如実言**

阿弥陀如来のはたらきに委  
ねるより他にありません。

のうほついちねんきあいしーん  
**能発一念喜愛心**

そのはたらきは煩惱盛んな  
私の為と慶べる時、煩惱抱

ふだんほんのうとくねはん  
**不断煩惱得涅槃**

えたままで、さとりを得る  
身と如来はさせるのです。

ほんじやうぎやくほうさいえにゆーう  
**凡聖逆誘齊廻入**

凡夫も聖者も、極悪人も、  
このはたらきに任せれば

にやしゆしにゆうかいいちみー  
**如衆水入海一味**

どの川もやがて同じ海にな  
るように、同じさとりを得

せつしゆしんこうじやうじょうごー  
**攝取心光常照護**

ます。すくい光は常に照  
らしているのです、

いのうすいはむみやうあーん  
**已能雖破無明闇**

迷いの闇はすでに破られて  
いるのですが、

とんないしんぞうしやうんむー  
**貪愛瞋憎之雲霧**

貪りや怒りなどの煩惱が、  
雲や霧のように、

じよーふしんじつしんじんてーん  
**常覆真实信心天**

常に真実の信心の空を覆つ  
ています。

ひによにつこうふうんむー  
**譬如日光覆雲霧**

うんむしげみようむあーん  
**雲霧之下明無闇**

ぎやくしんけんきようだいきようきー  
**獲信見敬大慶喜**

そくおうちようぜつごあくしゆー  
**即横超截五惡趣**

いつさいぜんまくほんぶにーん  
**一切善惡凡夫人**

もんしんによらいぐぜいがーん  
**聞信如来弘誓願**

ぶつごんこうだいしやうげしやー  
**仏言広大勝解者**

ぜにんみよーふんだりけー  
**是人名分陀利華**

しかし、雲や霧が日光を遮つていたとしても、その下

は、暗闇ではないように、如来に照らされています。

信心を賜り、如来のはたらしきを慶ぶ人は、

すぐに迷いの世を離れることが定まる身となります。

どのような人であろうとも、阿弥陀如来の本願は私

の為であつたと聞いて疑いなければ、

仏は、優れた智慧者である

とたたえられ、泥の中で白い花を咲かせる白蓮華のようだと称賛されます。

みだぶつほんがんねんぶーつ  
**弥陀仏本願念仏**

じやけんきようまなくしゆじよーう  
**邪見憍慢惡衆生**

しんぎようじゆじじんになーん  
**信樂受持甚以難**

なんちゆうしなんむかしー  
**難中之難無過斯**

いんどさいてんしろんげー  
**印度西天之論家**

ちゆーかーじちいきしこうそーう  
**中夏日域之高僧**

けんだいしやうこうせしやういー  
**顕大聖興世正意**

みようによらいほんぜいおうきー  
**明如来本誓応機**

阿弥陀如来のはたらきは、自分には関係がない、不都合は起こらないと考えている人には、

それを信じ、保ち続けることは甚だ難しいことです。

難中の難、これ以上難しいことはないのです。

西方のインドの菩薩方や、中国、日本の高僧方が、

お釈迦様がこの世におでましになられた本当の意味を

顕され、阿弥陀如来の本願は、まさに凡夫の私にこそ

ふさわしい教えであると明らか

にされたのです。

しやかによらいらようがせーん  
釈迦如来楞伽山

お釈迦様が楞伽山において、多くの人々に言われま

いしゅーんうみょうなんてんじゅーん  
為衆告命南天竺

した。「いずれ南インドに、龍樹菩薩が現れて、固執し

りゅうじゅだーいじしゅつとせーん  
龍樹大士出於世

偏った考えをことごとく打ち破り、すべてのものを乗

しつのうざいはうむけーん  
悉能摧破有無見

せる至極の大乗仏教を説

せんぜつだいいじょうむじょうほう  
宣説大乘無上法

き、後戻りのすることのない歡喜地に至り、安樂（極

しょうかんぎじしやうあんらーく  
証歡喜地生安樂

と。龍樹菩薩は、自らを当

けんじなんぎやうろくろーく  
顕示難行陸路苦

るような困難な道であり、阿弥陀如来の他力の行は、

しんぎやういぎやうしいどうらーく  
信樂易行水道樂

大きな船で進むような易しい道と説かれました。

おくねんみだぶつほんがーん  
憶念弥陀仏本願

阿弥陀如来の本願を疑いなく信受すれば、弥陀のほ

じーねんそーくじーにゅうひつじやう  
自然即時入必定

らにより、自ずと仏になる位に定まります。

ゆいのうじやうしやうによらいごう  
唯能常称如来号

ですから、ただひとえに

おうほうだいいーひくぜいおーん  
応報大悲弘誓恩

南無阿弥陀仏と称えて、如来大悲の恩徳に、報い

てんじんぼさつぞうろんせーつ  
天親菩薩造論説

べきですと説かれました。

きみやうむげこうによらい  
歸命無碍光如来

インドの天親菩薩は『浄土論』という書物を著され、

えしゅたらけんしんじーつ  
依修多羅顯真實

無碍光如来（阿弥陀如来）に帰依しますと告白されま

こうせんおうちやうだいいせいがーん  
光闡横超大誓願

した。大無量寿經に基づいて眞實を顕かにされ、凡夫がすくわれる阿弥陀如来の誓願を広く説かれました。

こーうゆほんがなりきえこーう  
**広由本願力廻向**

ほんがなりきえこーう  
本願力の回向によつて、一  
切がすくわれることを示す

いどぐんじょうしゅういつしーん  
**為度群生彰一心**

しんじん あまから  
為、疑いなく受け入れる  
信心を彰かにされました。

きにゆうくどくだいほうかーい  
**帰入功德大宝海**

あみだにょらい  
宝の海のような阿弥陀如来  
の功德に入ると、

ひつぎやくにゆうだいえしゆしゆー  
**必獲入大会衆數**

ぶつ  
必ずや仏に成る位に定まる  
のです。

とくしれんげぞうせかーい  
**得至蓮華藏世界**

ごくらくじょうど  
極樂浄土に往生すれば、

そくしやうしんによほつしやうじーん  
**即証真如法性身**

ただちにさとりをひらき、

ゆうほんのうりんげんじんずーう  
**遊煩惱林現神通**

ほんのう  
煩惱のこの世界に還り、神  
通力を用いて、様々な姿と

にゆうしやうじおんじおうげー  
**入生死園示応化**

なつて、まよいの人々をす  
くうと説かれました。

ほんしどんらなりようてんしー  
**本師曇鸞梁天子**

じやうこうらんしよぼさつらーい

**常向鸞処菩薩礼**

どんらんだいし  
中国の曇鸞大師は、梁の天  
子武帝が、  
菩薩であると常に礼拝され  
た方です。

さんぞうるしじゆじやうきよーう  
**三蔵流支授浄教**

ある時、菩提流支三蔵から  
浄土の經典を授けられ、長

ほんじやうせんぎやうきらくほーう  
**梵焼仙經帰樂邦**

浄土の教之に入りました。

てんじんぼさつろんちゆうげー  
**天親菩薩論註解**

てんじんぼさつ  
天親菩薩の『浄土論』に注

ほうどいんがけんせいがいーん  
**報土因果顕誓願**

釈を加え、浄土への因も果  
も、阿弥陀如来の誓願によ

おうげんねこうゆたりーき  
**往還回向由他力**

ると明らかにされました。  
往くも還るも阿弥陀如来に  
よつて回向されるので、

しやうじやうしんゆいしんじーん  
**正定之因唯信心**

往生の因は、ただ疑いなく  
受け入れる信心一つです。

わくぜんほんぶしんじんぼーつ  
感染凡夫信心発

しょうちしょうじそくねはん  
証知生死即涅槃

ひつしむりようこうみようどー  
必至無量光明土

しーうしゆじようかいふけー  
諸有衆生皆普化

どうしやくけつしやうどうなんしやう  
道綽決聖道難証

ゆいみようじようどかつうにゆーう  
唯明淨土可通入

まんぜんじりきへんごんしゆーう  
万善自力貶勤修

えんまんとくこうかんせんしやう  
円満徳号勸専称

ほんのう  
煩惱に染まる凡夫も、この  
しんじん  
信心を賜れば、まよいの身

がそのまま、さとりを開く  
身とさせていただけです。

そして、かならずや光満ち  
溢れる極樂淨土に至り、

あらゆるものを導くことが  
できると説かれました。

中国の道綽禪師は、自力の  
しやうどうもん  
聖道門でのさとりは難しく

ただ淨土門こそ、さとりの  
じやうどもん  
道と明らかにされました。

自力で修行をしても、到底  
じりき  
達成できず、完全な功徳を

具えた南無阿弥陀仏を専ら  
なむあみだぶつ  
称えることを勧めました。

さいんぶざんしんけおんごーん  
三不三信誨慙

ぞうまつほうめつどうひいーん  
像末法滅同悲引

いつしやうぞうあくちぐぜーい  
一生造惡値弘誓

しあーんにやうがーいしやうみやうかー  
至安養界証妙果

ぜんどうどくみやうぶつしやうい  
○善導独明仏正意

こうあいじやうざんよぎやくあく  
●矜哀定散与逆惡

こうみやうみやうこうけんいんねん  
光明名号顕因縁

かいにゆうほんがんだいちかい  
開入本願大智海

素直で、二心なく、継続す  
ることを懇ろに説かれ、ど

んな時代でも如来の大悲は  
届くを明らかにされました

一生悪を造ろうとも、阿弥  
だにやらい  
陀如来の弘誓に遇い疑いな

ければ極樂に往生しさと  
を聞けると説かれました。

善導大師は独り『觀經』の  
しよくそん  
釈尊の心を明かされました

修行者、善に励む者、悪を  
犯す者、すべてを哀れみ、

如来の光明と名号がすくい  
いんねん  
の因縁と明かされました。

本願の大なる智慧の海に  
ほんがん  
入り、

ぎようじやしようじゆこんごうしん

行者正受金剛心

金剛石のように堅固な信心を賜り、

きようきいちねんそうおうごう

慶喜一念相應後

如來も微笑むような慶びが起きたものは、『觀經』の

よいだいとうぎやくさんにな

与韋提等獲三忍

さとり、信順の三忍を獲、やがて極樂に往生し、すぐ

そくしやうほつしやうしじようらく

即証法性之常樂

に仏となると説かれました

げんしんこうかいいちだいき

源信広開一代教

日本の源信和尚は、仏教を広く学ばれた中で、

へんきあんにようかんいつさい

偏帰安養勸一切

ひとえに浄土を願ひ、すべての人に勧められました。

せんぞうしゆうしんはんせんじん

専雜執心判淺深

専ら本願を信じ念仏をする人は報土へ、その他の行を交える人は化土へ生まれると判別し、示されました。

ごくじゆうあくにんゆいしようぶつ

極重惡人唯稱仏

がやくざいひせつしゆちゆう

我亦在彼摄取中

ぼんのうしようげんすいふけん

煩惱障眼雖不見

だいひむけんじようしようが

大悲無倦常照我

ほんしげんくうみようぶつき

本師源空明仏教

れんみんぜんまくほんぶにん

隣愍善惡凡夫人

しんしゆうきようしようごうへんしゆう

真宗教証興片州

せんじやくほんがんであくせ

選択本願弘惡世

極重の惡人は、ただ南無阿彌陀仏と称えるべきです。

私もまた阿彌陀如來の光明に摂め取られているけれども、煩惱が障げとなつて見ることが出来ません。しかし、如來の大悲は、常に私を照らすと説かれました。

源空（法然）聖人は、仏教を明らかにされ、善人も惡人もすべての凡人を憐れんで、日本で浄土真宗のみ教之を明らかにされ、阿彌陀如來の本願の念仏を、この濁りの世に弘められました。

げんらいしやうじりんでんげ  
還来生死輪転家

迷いの世界へ生まれ変わり  
を繰り返すのは、

けつちぎじやういしよし  
決以疑情為所止

阿弥陀如来の本願を疑うか  
らです。

そくにゆうじやくじやうむいらく  
速入寂靜無為楽

速やかにさどりの世界に入

ひつちしんじんいのうにゆう  
必以信心為能入

るためには、本願を疑いな  
く受け入れる信心のみです  
と説かれました。

キン一打

なもあみだんぶ  
初重○南無阿弥陀仏

なもあみだんぶ  
●南無阿弥陀仏

なもあみだんぶ  
南無阿弥陀仏

なもあみだんぶ  
南無阿弥陀仏

なもあみだんぶ

なもあみだんぶ

な

なもあみだんぶ

なもあみだんぶ

な

みだじやうぶつ

○弥陀成仏のこのかたは

あみだによらいぶつ  
阿弥陀如来が仏と成られて、

ぐきやうだいじしゆうしとう  
弘経大士宗師等

浄土の教を弘め伝えて下  
さつた祖師方は、限りなく

じやうさいむへんごくじやくあく  
極濟無辺極濁悪

隔てなく濁りの世の人々を  
みなお導きになられます。

どうぞくじしゆうぐどうしん  
道俗時衆共同心

出家在家問わず、今の時代の  
人々はみなともに、高僧方の

ゆいかしんしこうそうせつ  
唯可信斯高僧説

お説きになられたことを、た  
だ疑いなく信じるべきです。

いまに十劫をへたまへり

十劫というはるかな時を経ています。

法身の光輪きはもなく

そのすくいのみ光に境界は無く、

世の盲冥をてらすなり

煩惱の闇の世に住む私を照らしています。

南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏

智慧の光明はかりなし

阿弥陀如来の智慧の光は、量りなく、限りがありません。

有量の諸相ごとごとく

あらゆる生きとし生けるものは悉く、

光暁かむらぬものはなし

闇夜に朝日が昇るように、照らされます。

眞実明に帰命せよ

眞実明（阿弥陀如来）を拠り所といたしましょう。

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

南無

二重〇阿弥陀仏

●南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

南

げだつ こうりん

○解脱の光輪きはもなし

こうそく

●光触かむるものはみな

うむ

有無をはなるとのべたまふ

びようどうがく きみょう

平等覚に帰命せよ

なもあみだんぶ

南無阿弥陀仏

なもあみだんぶ

南無阿弥陀仏

なもあみだんぶ

南無阿弥陀仏

なもあみだんぶ

南無阿弥陀仏

な

南

あみだによらい  
阿弥陀如来のさとり  
の光は、境界がありません。

その光に触れるものはみな、

執らわれたものの見方から解放されます。

びようどうがく  
あみだによらい  
平等覚（阿弥陀如来）を  
拠り所といたしましょう。

こうらんむげによこくう

○光雲無碍如虚空

いっさいーうげ

●一切の有碍にさはりなし

こうたく

光沢かぶらぬものぞなき

なんじぎーきみよう

難思議を帰命せよ

なもあみだんぶ

南無阿弥陀仏

なもあみだんぶ

南無阿弥陀仏

なもあみだんぶ

南無阿弥陀仏

なもあみだんぶ

○清浄光明ならびなし

あみだによらい

阿弥陀如来の光は、雲が光に照らされ輝くように、

遮られることがありません。

どのようごうな業ごうであらうと煩惱ぼんのうがあらうと障りとされ

ないのです。

いかなる私であらうとも光に照らされているのです。

なんじぎ

あみだによらい

難思議（阿弥陀如来）を扱あつかり所ところといたしまししょう。

なもあみだんぶ

南無阿弥陀仏

なもあみだんぶ

南無阿弥陀仏

なもあみだんぶ

南無阿弥陀仏

なもあみだんぶ

阿弥陀如来あみだによらいの清らかな光には、ならぶものがありません。

● 遇斯光のゆゑなれば

一切の業繫ものぞこりぬ

畢竟依を帰命せよ

南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏

○ 仏光照曜最第一

● 光炎王仏となづけたり

三塗の黒闇ひらくなり

大応供を帰命せよ

この光に遇い、うたががなく信じる身となれば、

あらゆる苦悩くろうの束縛から解放されます。

畢竟依ひつきようえ（阿弥陀如来あみだによらい）を拠り所といたしましょう。

南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏

阿弥陀如来あみだによらいの光の輝きは、最もすぐれているので、

光炎えんのうこう王えんのうこうとも呼ばれています。

地獄じごく、餓鬼がき、畜生ちくしようの三悪道さんまくどうの暗闇あんあんでさえ照らします。

大応供だいおうぐ（阿弥陀如来あみだによらい）を拠り所といたしましょう。

がんにし〜く

○願以此功德

〜

びようどうせいっさい

●平等施一切

〜

どうほつぼだいしん

同発菩提心

〜

おうじょうあんらつこ

往生安楽国

〜

キン三打 経本を頂く・合掌・念仏・礼拝

ごぶんしょう

御文章

ほんがんにじ

本願寺第八代目宗主蓮如上人（二四一五〜一四九九）が記された手紙。二〇〇通を超える

れんによしようにん

しょうにんいちりゆう

聖人一流の御勸化の趣は、

ごかんけ

おもむき

しんじん

信心をもつて本とせられ候。

ほん

そつろう

しんらんしょうにん

親鸞聖人が示された浄土真宗の教えで大切

じょうどしんしゅう

あみだによらい

な所は、阿弥陀如来より賜る信心です。その

しんじん

どうかこの阿弥陀如来の功德によつて

共に平等に声となり届いている阿弥陀如来の御名を聞き

共にこれをよろこび

安楽（極楽）浄土に、往生させていただきましよう。

ゆえ

ぞうぎょう

その故は、もろもろの雜行をな

いっしん

みだ きみょう

げすてて、一心に弥陀に歸命す

ふかしぎ

がんりき

れば、不可思議の願力として、

ぶつ

かた

おうじょう

じじょう

仏の方より往生は治定せしめ

くらい

いちねんぼつき

たまう。その位を、一念發起・

にゆうしじょうじょうじゆ

しやへ

うえ

入正定之聚とも釈し、その上の

しょうみょうねんぶつ

にょらい

おうじょう

称名念仏は、如来わが往生を

さだ

ごおんほうじん

ねんぶつ

定めたまいし、御恩報尽の念仏

ごころう

と心得べきなり。

理由は、自分の力には限界があることを知

あみだぶつ

らされ、さまざまな修行を捨てて、阿弥陀仏

のすくいにおまかせしますと心から思うな

らば、阿弥陀仏の力により、極樂浄土に生ま

あみだぶつ

ごくらくじょうど

れることが決まります。その境地は、次の世

に仏となることが定まる弥勒菩薩と同じで

ほとけ

みろくぼさつ

す。今ここが、すくいのご真ん中です。その

上で南無阿弥陀仏と称えることは、

阿弥陀仏はよくぞこの私を見捨てることな

あみだぶつ

く声をかけ続けて下さるのですねと頂きま

あみだぶつ

しょう。

しょうしんげ

# 正信偈とは

しんらんしょうにん

親鸞聖人が記された偈です。

あみだによらい

まず、阿弥陀如来への帰依を表さ

あみだによらい

れ、阿弥陀如来の成り立ちやすく

むりようじゆきよう

いが説かれた『無量寿経』の要点

を前半に記されています。

じようどしんしゆう

後半は、浄土真宗のみ教えに至る

までのインド・中国・日本の七人

こうそう

の高僧の教えをまとめ、讃嘆され

さんたん

ています。

読み方などわからない場合は、YOUTUBE「西光寺チャンネル」を参考にして下さい。その他の  
勤行・節談説教・紙芝居・アニメも配信しています

## 西光寺チャンネル



## 正信偈草譜



## 正信偈行譜



## 浄土真宗本願寺派西光寺

千葉県市原市根田七三二一

TEL 〇四三六―二二―七四二二

✉ saikohji@saikohji.net

HP 「市原市 西光寺」で検索かQRで

